

宇都宮市立錦小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答の割合が国語は100%、算数は96.4%で県や国の平均を上回っていた。普段から、児童の生活に関連させながら授業を行っていることへの成果が出ていると考えられる。今後も、学習したことがどのような生活場面で生かすことができるか、児童と一緒に考えながら授業に取り組んでいきたい。また、「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」や「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」という質問に対して、肯定的回答の割合が県や国の平均を上回っていた。児童一人ひとりが目的意識や課題意識をもって、友達や教師に伝えたり文章を書いたりしていることが分かる。これからも学習の見通しを示し、学習のめあてをはっきりさせながら授業を行ってほしい。

●「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の質問の肯定的割合は46.4%で、国より17.2ポイント下回っていた。問題を解くことだけでなく、いろいろな解き方を考えたり知ったりするために、友達と情報交換をしながら学び合う場を設ける。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して、肯定的回答の割合は92.9%で、国や県の平均を上回った。総合的な学習の時間では、児童が自分の興味や関心がある事柄から課題を設定し、調査方法を工夫しながら解決していくことができる授業を行っている。また、調べたことをポスターや新聞、スライドにまとめて発表する活動を通し、相手意識をもちながら取り組むことができている。自ら工夫し、進んで取り組めるような授業をこれからも行っていく。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対して、最も多い回答が「30分以上、1時間より少ない」で39.3%で、次に多かったのが「30分より少ない」で37.5%であった。8割近くの児童が家庭での学習で、ICT機器を使用している時間が1時間より少ないという結果になった。県や国と比べて1時間以上使っている児童の割合は少ないが、「全く使っていない」と答えた割合が県や国と比べて10ポイント以上低いので、家庭でもICT機器を活用している児童は多い結果となっている。今後も、学校での学習だけでなく、家庭でも自主学習や調べ学習などで有効的に活用する方法を児童に伝えていき、併せて興味があることや疑問、学習していて分からないところなどを自分で解決していく力を伸ばしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的回答の割合が100%であった。全ての児童がいじめは許されないことだということを理解していることが分かる。「いじめゼロ強調月間」や「いじめゼロ集会」などと関連させながら、道徳や学級活動の時間などに、いじめについて考えさせていることがこのような結果に表れていると考えられる。今後も、普段の生活でもいじめについて考える機会を与えていきたい。

宇都宮市立錦小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	各教科等の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるような発問や学習活動の工夫。	学習の大切さを理解し、分からないことや詳しく知りたいことを自分で工夫して学べる児童が全国平均よりも多く見られた。また、自分の考えが伝わるように説明したり書いたりすることについても全国平均より高い正答率であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の学習で、解けた後にも問題のいろいろな解き方を考えることや、分からないときにあきらめずに解き方を考えることにおいて、課題が見られた。	体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、繰り返し学習による指導の実践。	日常生活や身近な現象の中の具体的な数量・図・データを活用した問題を工夫することで、算数に興味をもたせたり、理解を深めたりできるように指導する。